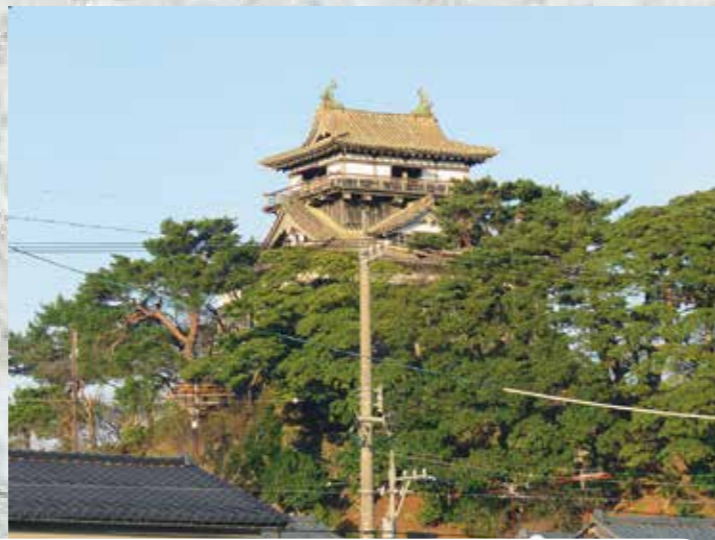


昭和 17 年頃撮影



平成 28 年撮影



左の写真は震災前の昭和 17 年ごろに撮影されたもの。右は同じ角度で最近撮影したもの。当時に比べて木が成長し、電柱や家もみられたりして、周囲の景観が少し変わっていますが、天守の姿は変わっていないことがわかります。

震災によって倒壊しましたが、関係者の尽力により、震災前と変わらない姿を見ることができます。



古写真や修理工事報告書をもとに、CG で想像復元された築城当時の丸岡城天守。こけら葺きの屋根や金箔の鯨など、今とは異なる姿をしていたことがわかります。

○あとがき○

今回貴重な資料をご提供いただき、丸岡城の調査研究に大きな成果をあげることができました。提供いただいた故竹原吉助氏のご家族、並びに調査にご協力いただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月 編集・発行

坂井市教育委員会 丸岡城国宝化推進室

〒910-0231 福井県坂井市丸岡町霞町 1-41-1

電話 0776-50-2270 FAX 0776-50-2553

E-mail bunka@city.fukui-sakai.lg.jp

丸岡城調査研究パンフレット No.1

# 知られざる丸岡城

平成 27 年度丸岡城調査研究事業成果報告



現在の丸岡城 昭和 15 年ごろの丸岡城

昭和 15～17 年に行われた丸岡城解体修理工事の際に、多くの写真が撮影されました。それらの写真は、昭和 23 年に発生した福井地震で倒壊した天守の再建に欠かせない資料になりました。今度の丸岡城天守の調査にとっても貴重な資料で、写真を検討することで丸岡城天守の新たな事実がわかりました。

坂井市教育委員会 丸岡城国宝化推進室



# 丸岡城の調査で こんなことがわかってきました。

## 1) 現在屋根には石瓦が葺かれているが、 石瓦葺の前はこけら葺であった。

戦前の昭和 17 年の報告書には「石瓦葺の下に旧のこけら葺の一部が残っていた」との記述があり、もとはこけら葺でした。防火性が求められる軍事施設である天守では異例で、現存する天守でこけら葺のものはありません。

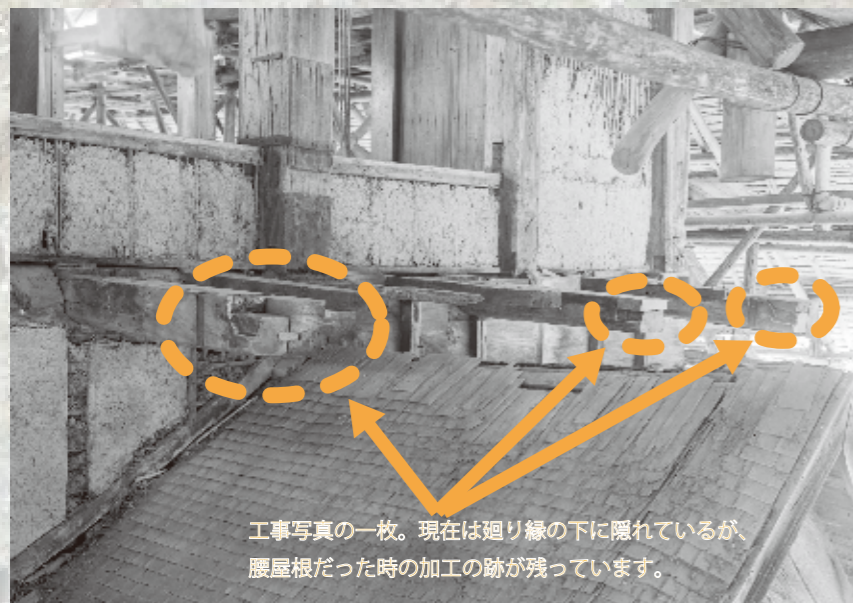
※こけら葺とは、長さ 20~30 cm、幅 10 cm、厚さ 5mm 程度の木の板を重ねて屋根を葺くもので、現代でも神社や寺などにみられます。近年復元された名古屋城本丸御殿もこけら葺です。



こけら葺きの一部が残っている様子が撮影されています。

## 2) 3階の外に廻っている外縁は、 後世に改造されたもので、建築当 初は腰屋根であった。

戦前の昭和 17 年の報告書に「3階の廻り縁は建築当初腰屋根であった」との記述があり、古写真でその痕跡が確認できます。そして、国立公文書館所蔵の「越前国丸岡城之絵図」(正保期)に描かれている丸岡城天守には廻り縁がなく、板葺の腰屋根が描かれています。



工事写真の一枚。現在は廻り縁の下に隠れているが、腰屋根だった時の加工の跡が残っています。

## 3) 以前は懸魚に漆が塗られ、鯨は木製で、金箔が押されていた。

戦前の昭和 17 年の報告書に「懸魚は漆塗であった」と書かれており、現在保管している懸魚に漆と思われる塗膜が残っています。そして懸魚がとりつく破風板も漆が塗られていたと考えられます。

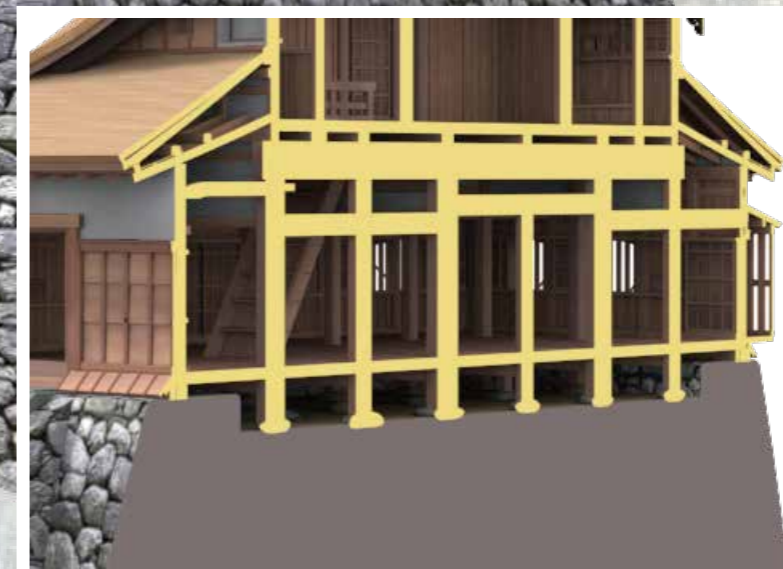
戦前の修理報告書に、「鯨は部材の一部が残り、木製で金箔が押されていた」との記述があり、その部材の写真が見つかりました。



市が保管している懸魚。漆と思われる塗膜片が残っています。

## 4) 建築当初は石垣の内側が周囲より一段低く 造成されていた可能性がある。

現在の柱はすべて礎石の上に建てられています。戦前の修理前は一部の柱が掘立柱であったことが知られていました。古写真から、天守台石垣の内側に石列があることが確認されました。建築当初は天守台上面の内側が低く造成され、その面に礎石を据えて柱が立っていた可能性が考えられます。



写真は石垣の上面を撮影したもの。石垣の内側に石が並べられていることがわかります。このことから、左の図のように床下に現在よりも広い空間があった可能性があります。